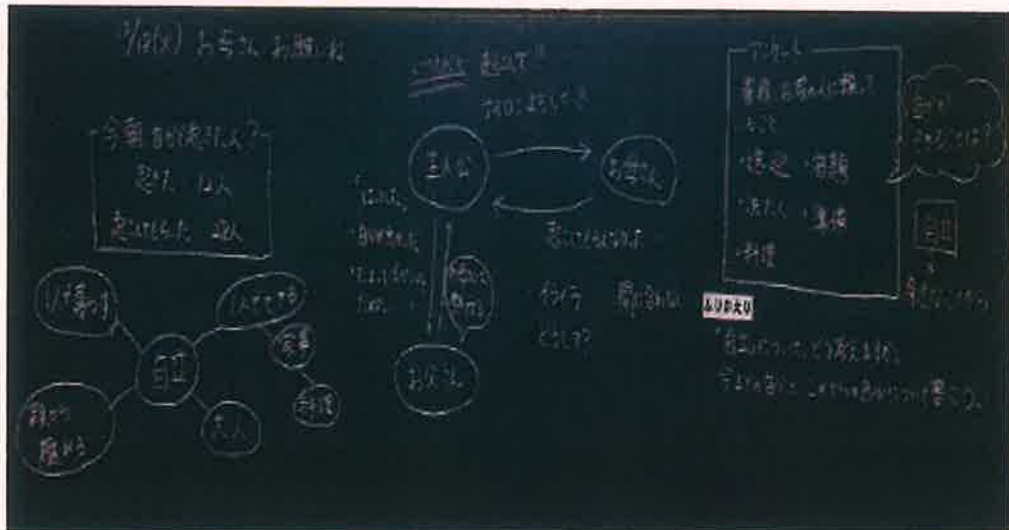
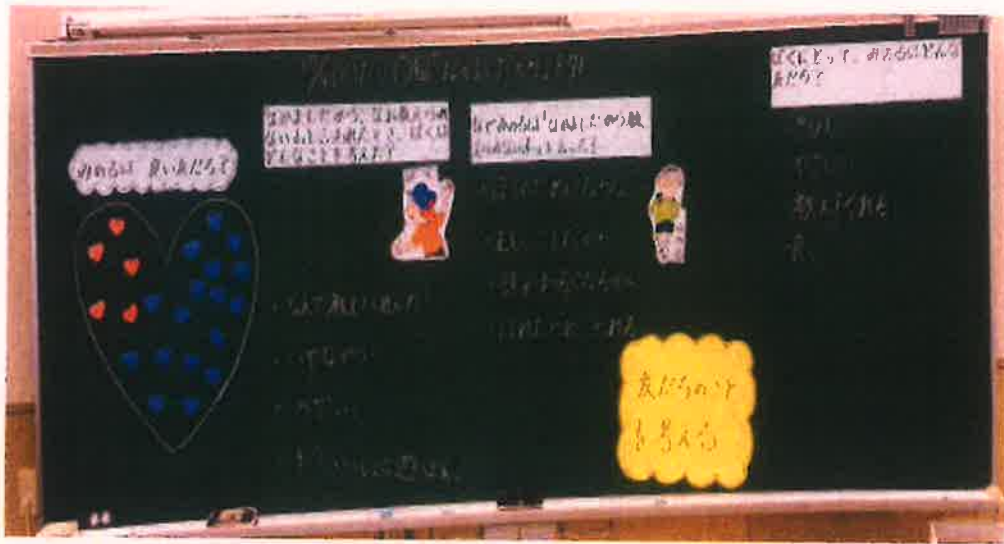


III 3年研(道德)



学校名	対象学年	指導・助言者名	校長名
船越小学校	3年	當山 園代 印	天久 三千代 公印

第3学年 道徳学習指導案

令和4年9月7日（水）6校時

3年2組 計30名

指導者 津波古 淳 印

- 1 主題名 「本当の友達」「B 友情、信頼」
- 2 教材名 「なかよしだから」 出典（東京書籍『新訂 新しいどうとく3』）

3 ねらい

宿題の答えを教えなかった実君の気持ちを考えることを通して、友達を大切にしようとする態度を育てる。

4 主題設定理由

(1) ねらいとする道徳的価値

本主題は、学習指導要領の内容項目B「主として人との関わりに関すること」の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」を受けて設定したものである。これは、第1・2学年の「友達と仲よくし、助け合うこと。」を受けたもので、第5・6学年の「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」に発展していくものである。

この段階においては、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくなない。お互いのためにどうあるべきかをよく考え、ともに向上しようと努力することが真の意味での友情なのだということに気付かせることが必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童生徒の実態（児童生徒観）

本学級の児童は、4月からふまえると徐々に仲の良いグループができつつあり、そのグループのみで遊ぶ様子が増えてきているように見える。また、男子は男子、女子は女子等、同性での結びつきが強くなってきている様子がある。個々を認めあうことも大切であるが、性別や似た価値観で集まるのではなく、誰とでも分け隔て

無く接することができるクラスの良さを伸ばし、同じクラスの一員として児童同士がまとまっていけるよう指導したい。

(3) 資料観

「ぼく」は、うっかり忘れてしまった算数の宿題を、仲良しの実君に教えてもらおうと思いつく。前日、実君にカーブの投げ方を教えてあげたから、そのお返しに教えてくれるだろうと考えたのである。ところが、実君に「なかよしだから、なお教えられないよ。」と断られる。なぜ宿題を教えてくれなかったのか、「なかよしだから、なお教えられないよ」という言葉の真意は何か、それぞれの場面に
ついてぼくと実君、それぞれの気持ちを考えていくことを通して、本当の友達、本当の優しさとは、相手の気持ちや考えを理解し、認め合い、尊重し合いながら心を通わせるものだという事に気付かせ、ねらいに迫りたい。

5 本時の学習

(1) 授業の工夫

本時の学習において、事前のアンケートを通して「友達に注意されたことはあるか」「友達に言いにくいことを注意できる？」等の質問をし、まとめ、導入の場面において児童の今までの経験を振り返る時間を確保し、教材や本時のねらいについて興味を持たせる。

また、答えを教えることを実君が断った場面で、「実君がなぜ断ったのか」を考えることにより、実君の僕を想う気持ちに気づかせる。

終末の場面においては、「良い友達にお互いになれるようにどうすべきか」とねらいとする道徳的価値の意味を考えさせる発問をする。

(2) 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 これまでの経験を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 良い友達ってどんな友達？ ・遊んでくれる人 ・助けてくれる人 </div>	・アンケートの結果を掲示し、注意された内容等について振り返る。 「よい友達」とはどんな友達か確認する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> この前のアンケートの結果です。 ・友達に注意されたことある？ ある ない ・友達に言いにくいことを注意できる？ できる できない </div>	
		教材を読む <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> みるのは、良い友だち？ </div> ・ハートのマグネットを貼る。	

展開 30分	<p>2 資料を読んで、登場人物の気持ちについて考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「なかよしだから、なお教えられないよ」と言われたとき、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよしなのに、なんで・・・ ・ひどい ・カーブ教えてあげなければ良かった ・友達やめようかな・・・ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">なんで、実は「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・僕のためにならない ・正しいことだから ・頭が悪くなる ・ばれたら怒られる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ぼくにとって実はどんな友達？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・良い友達 ・厳しい友達 ・友達思いの友達 ・ぼくのためにならない ・その子のことを思って正しいことは言わなきゃいけない <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友達のことを考えて、正しいけど言いにくいことも言うことが友達なんだね</div>	<p>○ぼくの気持ちに共感させる。</p> <p>○ペアで話し合わせた後に全体で発表</p> <p>○ペアで話し合う</p> <p>○全体で共有</p> <p>○全体で共有</p>
終末 10分	<p>3 学習のまとめ</p>	<p>○振り返りを書きましょう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ふりかえりの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の自分と今の自分で変わったこと、気づいたこと ・友達から学んだこと ・もっとがんばりたいこと </div>	<p>○道徳ノートに自分の考えを記入させる。</p>

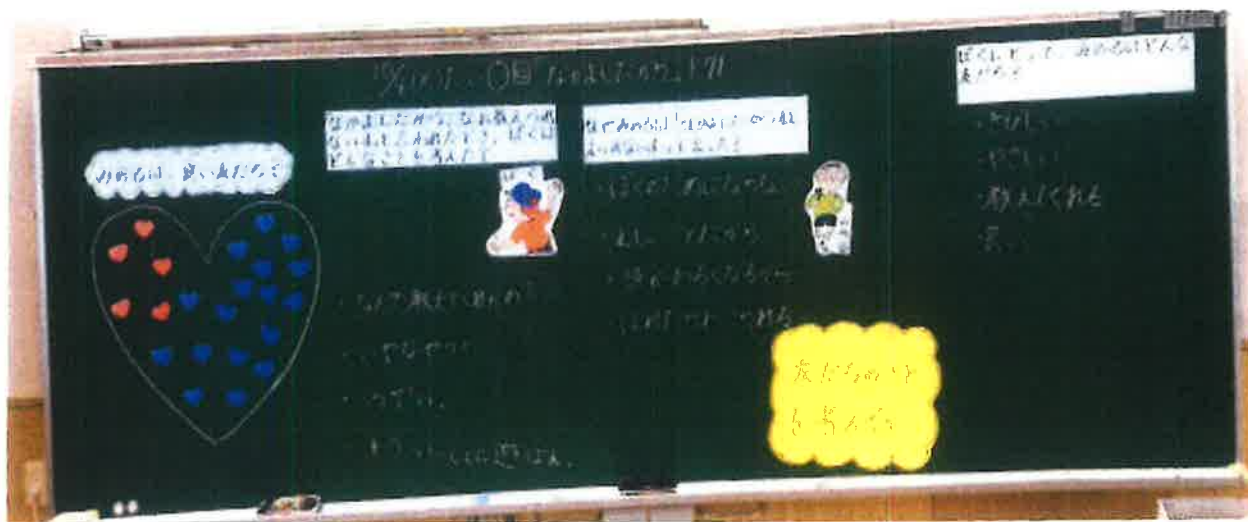
6 評価

- ・ 友達のことを互いに理解し、信頼し、助け合うことの大切さに気づき、それを基にしてこれからの自分の行為について考えようとしている。(ノート・発言)

7 事後指導

- ・ ノートの発言をいくつかコピーし、友達の思う「よい友達」について共有する。

8 板書計画



第6学年 道徳学習指導案

令和4年9月15日(木) 6校時

6年2組 計27名

指導者 根間 愛姫

1 主題名 「自分の生活を見直して」「A 節度、節制」

2 教材名 「お母さん、お願いね」 出典(編集委員会)

3 ねらい

自立を意識して自分の生活を見直し、節度を守り、節制を心がける態度を育てる。

4 主題設定理由

(1)ねらいとする道徳的価値

平成29年告示小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編の高学年の内容項目A-(8)では「安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること」と示されている。これは、児童が自分の身の回りのことは自分で行き、生活習慣の大切さに気づいたり、自立に向けた力をつけたりすることが大切であると考えられる。

この段階の児童は、基本的な生活習慣について、その意義を理解し、おおむね身に付けていることが期待される。しかし、不規則な生活によって体調を崩したり、集中力を欠いたりする児童が少なくない。

指導にあたっては、基本的な生活習慣は心身の健康を維持増進し、活力のある生活を支えるものであることへの理解を一層深めるようにする必要がある。また、児童一人一人が自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて進んで見直ししながら、望ましい生活習慣を積極的に築くとともに、自ら節度を守り節制に心掛けるように継続的に指導することが求められる。

(2)児童生徒の実態(児童生徒観)

本学級の児童は、基本的な生活習慣の大切さはわかっており、委員会活動の時間に合うように登校できる児童が多い。しかし、提出物の期限が遅れたり宿題の忘れ物をしたりと児童もいる。忘れ物をした際に理由を尋ねると、「朝急いでいました」「メモを見ていませんでした」と返答がくる。また、「母さんに言われていない」と答える児童もいる。そこで、本教材を通して児童が自分の生活を振り返り、自立に向けて身の回りのことを自分でできるようにし、節度・節制を心掛ける態度を育てていけるようにしたい。

(3)資料観

6年生になっても母親に甘え、起床やアイロンがけなどの生活について頼ってばかりだった「わたし」が母親の病気をきっかけに、今まで甘えすぎていた自分に気づく。本教材は、主人公と自分を重ねながら家族や友人を頼ってばかりだった自分を見つめ直すことのできる教材である。これからどのような自分でありたいかを考えて、

改善すべき点を見直していくことの大切さを感じることができるようにする。

5 本時の学習

(1) 授業の工夫

事前に「普段お家の人にやってもらっていることは何か」という設問のアンケートを取り、それを基に授業終末で、主人公と自分を重ねながら、頼ってばかりではなく、自分にできることを考えさせる。また、導入で『自立』からイメージすることは」という発問について、一人でなんでもできるという大人のようなイメージを持つと考える。そこで教材にあるような「自分で起きること」「自分でアイロンをかけること」などの、「身近な自立」に近づけていけるようにしたい。

(2) 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1. 今朝、自分で起きたかを聞く 2. 「自立」のイメージを確認	○今朝、自分で起きた人いますか？ ・起きられた ・起きられなかった ・いつも起こしてもらっている ○『自立』からイメージすることは？ ・なんでもできる ・大人	・児童同士でどのように起きているか話をさせ、教材につなげる。 ・「自立」のイメージを持たせ、教材に移る。
展開 30分	3. 教材文を読んで考える	○主人公はお母さんに、何をしてもらいたかったの？ ・朝起こしてほしい ・アイロンをかけてほしい ○朝起こしてもらえなかったときどんな気持ちだろう？（中心発問） ・起こしてもらえなくてイライラ ・自分が悪い ○お父さんの言葉にはっとしたとき、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。 ・ひどいことを言ってしまった。 ・お母さんに頼ってばかりだ.. ・お母さんをあてにしてばかりで情け	・頼んでいたことを果たされなかったことを一方的に相手のせいにする気持ちを、自分との関わりで考えさせる。 ・ネームプレートで意思表示させる。 ・身近な例を挙げ、自分事でも考えていけるように補助発問をする。 ・挿絵で登場人物の表情も見せながら、心情理解を深める。 ・「自立は大切なこと？」と補助発問をし、自分にとっても

		<p>ない…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できることは自分でやらなきゃ <p>○「今日から自分は変わらなくてはいけない。」という言葉は、「わたし」のどんな決意を表しているのでしょうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活だから、自分できちんとしたい。 ・自分でできることは自分でやる ・できないものもできるようにしたい 	<p>両親にとっても大切な事と考えさせる。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>4. アンケートの提示</p>	<p>☆普段お家の人に頼っていることは？</p> <p>○この中から今日から自分でできることとできないことに分けましょう。</p> <p>できること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝自分で起きる ・洗濯物 <p>できないこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎 ・食事の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で最低限できることを見つけさせる。
	<p>5. 翌朝、自分で起きられそうかを聞く</p>	<p>○明日、自分で起きられそうな人はいますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起きられそう ・起きられなさそうだけど頑張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入との変容を見取る。
	<p>6. 振り返り</p>	<p>○『自立』についてどう考えますか。今までの自分とこれからの自分を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までお母さんに起こしてもらっていた。明日からは自分で起きる。 ・学校の準備など自分でできることを増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日からできる、最低限の「身近な自立」ができるような声かけを行う。

6 評価

「自立」とは何かを、自分自身を振り返ることで考えることができたか。

7 事後指導

朝の会で「今朝、自分で起きた人？」「体育着やエプロンを自分で準備した人？」など問いかけて、「身近な自立」から定着を図るようにする。

8 板書計画

